

# 根間 弘海 教授

## 経歴・職歴

### ★ 経歴

1943年2月12日 沖縄県宮古島生まれ。

### ★ 学歴

1965.3 琉球大学法文学部英語英文科卒業

1966.6～1968.1 聖マイケル大学大学院（バーモント州）

修士課程修了（英語教授法）

1970.6～1972.1 ハワイ大学大学院修士課程修了（言語学）

1972.2～1974.2 ハワイ大学大学院博士課程単位取得満期退学（言語学）

1974.4～1975.3 東北大学大学院文学研究科英語学専攻研究生

### ★ 職歴

1965.4～1968.3 コザ高等学校教諭（1966.5以降休職）

1968.4～1970.5 沖縄女子短期大学英語商業科講師

1975.4～1981.3 金城学院大学文学部講師・助教授（1976.4）

1981.4～1986.3 弘前大学人文学部助教授

1986.4～現在 専修大学経営学部教授

### ★ 主要業績

#### I 著書・翻訳書

- (1) 1978.8 『初歩生成音韻論』, 216頁, 中部日本教育文化会.
- (2) 1978.8 『初歩英語音声学』, 210頁, 中部日本教育文化会.
- (3) 1979.1 『生成音韻論接近法』, 184頁, 中部日本教育文化会.
- (4) 1979.6 『話題英作文』, 63頁 (TMあり), 中部日本教育文化会.

- (5) 1979.6 『英作文教本』, 63 頁 (TM あり), 中部日本教育文化会.
- (6) 1980.2 『生成音韻論』 (S.A.Schane 著 Generative Phonology の訳書, 桑原氏と共訳, 191 頁, 研究社.
- (7) 1980.9 『音声構造と規則性』, 193 頁, 文化評論出版.
- (8) 1980.12 English Through Listening and Speaking, Werner 氏と共著, 109 頁 (TM あり), 英宝社.
- (9) 1982.3 『音韻分析の周辺』, 221 頁, 晃学出版.
- (10) 1983.2 『現代英語の強勢体系』 (Halle & Keyser 著 English Stress の訳書, 桑原氏と共訳, 176 頁, 英宝社.
- (11) 1983.12 Explain It in English, Abe 氏と共著, 70 頁 (TM あり), 金星堂.
- (12) 1983.1 A Better Guide to Oral English, Abe 氏と共著, 112 頁 (TM あり), 金星堂.
- (13) 1984.3 『英語の強勢と定式化』, 204 頁, 晃学出版.
- (14) 1984.9 Practical English Aural-Oral Course 2: Step Grade 2 (Book 1), 144 頁, 日本英語教育協会.
- (15) 1984.9 Practical English Aural-Oral Course 2: Step Grade 2 (Book 2), 144 頁, 日本英語教育協会.
- (16) 1984.12 Teach Me How in English, Abe 氏と共著, 110 頁 (TM あり), 英宝社.
- (17) 1985.5 『韻律理論と英語の強勢』, 283 頁, 晃学出版.
- (18) 1986.10 『英語の発音演習』, 191 頁 (TM あり), 大修館書店.
- (19) 1987.12 Background to English Speaking Countries, Musman 著の注釈と設問作成, 126 頁 (TM あり), マクミランランゲージハウス.
- (20) 1988.2 『フレッシュ・英語の発音演習』, 103 頁 (TM あり), 大修館書店.
- (21) 1988.2 Effective English Writing, Logan 氏と共著, 93 頁 (TM あり), 桐原書店.
- (22) 1988.11 Communication Through English, Logan 氏と共著, 135 頁 (TM あり), 英宝社.

- (23) 1990.1 Life on Campus, Logan 氏と共著, 128 頁 (TM あり), 金星堂.
- (24) 1990.5 『最新米語会話教本』(上級編), Cataldo 氏と共著, 271 頁, 日本英語教育協会.
- (25) 1991.1 Daily Life in America, Logan 氏と共著, 129 頁 (TM あり), 英宝社.
- (26) 1991.2 English Writing for Better Speaking, Reniker 氏と共著, 120 頁 (TM あり), 桐原書店.
- (27) 1991.11 『英語音声学演習』, 149 頁 (TM あり), 大修館書店.
- (28) 1992.1 American Life from a New Angle, Cataldo 氏と共著, 90 頁 (TM あり), 金星堂.
- (29) 1992.1 What's Up in America?, Ball 氏と共著, 86 頁 (TM あり), 英宝社.
- (30) 1992.2 New College English Course, Anderson 氏と共著, 93 頁 (TM あり), 桐原書店.
- (31) 1993.1 Write for Fun, Phillips 氏と共著, 122 頁 (TM あり), 英宝社.
- (32) 1993.2 U.S. Scenes Today, Smillie 氏と共著, 103 頁 (TM あり), 三修社.
- (33) 1994.1 Expressing Japanese Culture, Smillie 氏と共著, 136 頁 (TM あり), 金星堂.
- (34) 1994.1 Freedom, Rights and Responsibility, Reveler 氏と共著, 130 頁 (TM あり), 金星堂.
- (35) 1994.2 Listening Network, Smillie 氏と共著, 111 頁 (TM あり), 三修社.
- (36) 1995.1 Thinking of Our World, Cataldo 氏と共著, 123 頁 (TM あり), 英宝社.
- (37) 1995.1 20 Short Listening Tests, Reveler 氏と共著, 44 頁 (TM あり), 金星堂.
- (38) 1995.1 Expressions for Everyday Life, Logan 氏と共著, 96 頁 (TM あり), 金星堂.
- (39) 1995.2 Rediscovering America and Canada, Reveler 氏と共著, 110 頁 (TM あり), 研究社.

- (40) 1995.3 Across the Border, Smillie 氏と共著, 106 頁 (TM あり), 三修社.
- (41) 1996.10 『英語の発音とリズム』, 194 頁 (TM あり), 開拓社.
- (42) 1996.1 『大学生のボキャビル・テスト』, Reveler 氏と共著, 96 頁 (TM あり), 金星堂.
- (43) 1996.1 Life and the Earth, Smillie 氏と共著, 126 頁 (TM あり), 英宝社.
- (44) 1996.2 Just the Way You Are, Ferris 氏と共著, 105 頁 (TM あり), 三修社.
- (45) 1996.1 Screening Current Issues, Reveler 氏と共著, 116 頁 (TM あり), 金星堂.
- (46) 1997.2 Twenty American Heroes, Serafin 氏と共著, 103 頁 (TM あり), 三修社.
- (47) 1997.2 Toefl-Style Listening Helper 20, Smillie 氏と共著, 44 頁 (TM あり), 英潮社.
- (48) 1997.3 『アクセス TOEFL』, トレヴィル氏と共著, 174 頁 (TM あり), 洋販出版.
- (49) 1998.4 『ここまで知って大相撲通』, 237 頁, グラフ社.
- (50) 1998.8 『Q&A 形式で相撲を知る SUMO キークエスチョン 258』 (岩淵デボラ訳), 205 頁, 洋販出版.
- (51) 1998.1 Enjoy Expressing Yourself, Smillie 氏と共著, 95 頁 (TM あり), 金星堂.
- (52) 1998.1 Your Ear for English, Smillie 氏と共著, 40 頁 (TM あり), 金星堂.
- (53) 1998.2 Listening, Shadowing and Speaking, McGrath 氏と共著, 87 頁 (TM あり), 英潮社.
- (54) 1998.2 American Sights and Sounds, Smillie 氏と共著, 93 頁 (TM あり), 三修社.
- (55) 1998.8 『口語表現で学ぶ速解英単語』, Smillie 氏と共著, 414 頁 (TM あり), 洋販出版.

- (56) 1999.1 Listen, Look and Answer, Clark 氏と共著, Haruhiko Miyajima (宮島晴彦) のペンネームで執筆, 50 頁 (TM あり), 英宝社.
- (57) 1999.2 Better Listening Through Rhythm, Smillie 氏と共著, 102 頁 (TM あり), 英宝社.
- (58) 1999.2 Reading into the Future, Smillie 氏と共著, 110 頁 (TM あり), 金星堂.
- (59) 1999.2 Daily Life Listening, Smillie 氏と共著, 61 頁 (TM あり), 英宝社.
- (60) 1999.4 『こうすれば通じる英語の発音』, Smillie 氏と共著, 175 頁 (TM あり), ジャパンタイムズ社.
- (61) 2000.1 Your Window on Listening, Smillie 氏と共著, 44 頁 (TM あり), 金星堂.
- (62) 2000.1 Listening Closer to English, Smillie 氏と共著, 50 頁 (TM あり), 英宝社.
- (63) 2000.1 『発音とリズムをマスターする英語音声学』, 鈴木氏と共著, 157 頁 (TM あり), 英宝社.
- (64) 2000.2 Changing Ideas Around Us, Smillie 氏と共著, 102 頁 (TM あり), 英潮社.
- (65) 2001.1 Toefl-Type Questions on Hot Topics, Reveler 氏と共著, 125 頁 (TM あり), 英宝社.
- (66) 2001.1 Our Changing World, Reveler 氏と共著, 102 頁 (TM あり), 南雲堂.
- (67) 2001.1 Listening and Self-Expression, Smillie 氏と共著, 95 頁 (TM あり), 南雲堂.
- (68) 2001.2 Listen In and Speak Out, McGrath & Patterson 両氏と共著, 90 頁 (TM あり), 英潮社.
- (69) 2001.5 『英語のリズムと発音の理論』, 241 頁 (TM あり), 英宝社.
- (70) 2001.11 Lively Writing, Reveler 氏と共著, 106 頁 (TM あり), 南雲堂.
- (71) 2002.1 First Steps to TOEIC Test Listening, Smillie 氏と共著, 43 頁 (TM あり), 桐原書店.

- (72) 2002.11 Keep on Listening, Reveler 氏と共著, 49 頁 (TM あり), 南雲堂.
- (73) 2002.6 『リズムで覚える英語のリスニング』, Nagatomo 氏と共著, 189 頁, ナツメ社.
- (74) 2003.1 A New Read on World Issues, Reveler 氏と共著, 71 頁 (TM あり), 英宝社.
- (75) 2003.3 『英語はリズムだ!』, Smillie 氏と共著, 188 頁, 創元社.
- (76) 2004.7 『リズムに乗せれば英語は話せる』, Smillie 氏と共著, 149 頁 (TM あり), 創元社.
- (77) 2004.1 EFL News Desk, Reveler 氏と共著, 64 頁 (TM あり), 英宝社.
- (78) 2004.1 Improving Listening and Pronunciation with Rhythm, Smillie 氏と共著, 62 頁 (TM あり), 英宝社.
- (79) 2004.1 Burning Issues, Reveler 氏と共著, 85 頁 (TM あり), 南雲堂.
- (80) 2005.1 Listening Through Rhythm and Folk Songs, Smillie 氏と共著, 50 頁 (TM あり), 英宝社.
- (81) 2005.1 Topical Topics for Toefl-Type Reading, Reveler 氏と共著, 122 頁 (TM あり), 英宝社.
- (82) 2005.1 Listening Workout, Smillie 氏と共著, 95 頁 (TM あり), 南雲堂.
- (83) 2006.1 Current History, Reveler 氏と共著, 77 頁 (TM あり), 南雲堂.
- (84) 2006.5 『大相撲と歩んだ行司人生 51 年』, 33 代木村庄之助と共著, 179 頁, 英宝社.
- (85) 2007.1 Advertisements, Postcards and Web Pages, Reveler 氏と共著, 117 頁 (TM あり), 英宝社.
- (86) 2009.2 English for the Digital World, Reveler 氏と共著, 94 頁 (TM あり), 三修社.
- (87) 2010.7 『大相撲行司の伝統と変化』, 352 頁, 専修大学出版局.
- (88) 2011.3 Reading the World, Reveler 氏と共著, 60 頁 (TM あり), 南雲堂.
- (89) 2011.11 『大相撲行司の世界』, 193 頁, 吉川弘文館.
- (90) 2012.8 『大相撲行司の軍配房と土俵』, 279 頁, 専修大学出版局.

## II 論文

### A. 英語や音韻関係

- (1) 1975.12 「形態論と生成文法(1)」『金城学院大学英米文学編』第17号, pp.93-111.
- (2) 1976.12 「自然音韻論の輪郭」『金城学院大学英米文学編』第18号, pp.109-26.
- (3) 1978.3 「日本語のピッチ・アクセント」『金城学院大学英米文学編』第19号, pp.99-121.
- (4) 1979.2 「基底分節音の配列をめぐって」『金城学院大学英米文学編』第20号, pp.139-59.
- (5) 1980.3 「なぜ弁別素性か」『金城学院大学英米文学編』第21号, pp.155-83.
- (6) 1980.7 「動詞活用変化の分析について」『表現学論叢』(表現学会編), pp.37-50, 中部日本教育文化会.
- (7) 1981.9 「動詞語形変化の分析をめぐる問題点」『表現研究』第34号(表現学会), pp.41-50.
- (8) 1981.3 「外来語の周辺」『金城学院大学英米文学編』第22号, pp.157-84.
- (9) 1983.3 「外来語と規則の正当化」『弘前大学人文学部文経論叢』第18巻3号, pp.25-46.
- (10) 1985.3 「接尾辞 -(at)oy と -ary を伴う語」『弘前大学人文学部文経論叢』第20巻3号, pp.163-90.
- (11) 1987.2 「句のリズム規則と韻律樹形図」『専修人文論集』第39号, pp.49-87.
- (12) 1991.8 「音韻論の空白」『専修人文論集』第48号, pp.69-98.
- (13) 1992.12 「リズム調整と強勢移動」『専修語学ラボラトリー論集』第21号, pp.37-64.
- (14) 1993.2 「複合語と句の強勢」『専修人文論集』第51号, pp.137-61

- (15) 1993.3 「言語教育と CAI」『専修大学情報科学研究』, No.13, 加藤・島田両氏と共著, pp.12-33.
- (16) 1993.7 「英語のリズム調整と強勢付与」『専修大学人文科学研究所月報』第 154 号, pp.1-34.
- (17) 1993.9 「複合語強勢規則と核強勢規則」『専修人文論集』第 52 号, pp.35-62.
- (18) 1993.12 「英語の強勢とリズム」『専修大学外国語教育論集』第 22 号, pp.57-88.
- (19) 1993.11 「CAI によるリスニングとスピーキング」『コンピュータ利用の外国語教育』, 加藤氏と共著, pp.170-9.
- (20) 1994.2 「英語の韻脚とグリッド」『専修人文論集』第 53 号, pp.143-80.
- (21) 1994.9 「英語の帯気化と弾音化と声門化」『専修大学人文科学研究所月報』第 160 号, pp.1-40.
- (22) 1994.9 「連続する機能後のリズム」『専修人文論集』第 54 号, pp.75-107.
- (23) 1995.3 「英語の子音連結と音節区分」『専修人文論集』第 56 号, pp.23-61.
- (24) 1995.3 「英語の子音連結と聞こえ度」『専修大学外国語教育論集』第 23 号, pp.65-94.
- (25) 1995.10 「英語の音節区分と両音節姓」『専修人文論集』第 57 号, pp.49-82.
- (26) 1996.3 「英語の音韻規則と適用領域」『専修大学外国語教育論集』第 24 号, pp.19-48.
- (27) 1996.10 「英語の母音推移と母音交替」『専修人文論集』第 59 号, pp.115-60.
- (28) 1997.3 「英語の子音交替」『専修大学外国語教育論集』第 25 号, pp.1-27.
- (29) 1997.3 「英語の無強勢化」『専修人文論集』第 60 号, pp.171-215.



- (30) 1999.3 「シャドーイングと逐次通訳による英語の LL 授業」 『1998 年 LL 研究室ワークショップ発表論集』, pp.1-8.
- (31) 2003.3 「英語のリズムで読む」 『専修人文論集』 第 72 号, pp.301-36.
- (32) 2004.3 「英語のリズムと強勢表記」 『専修人文科学年報』 第 34 号, pp.29-54.
- (33) 2005.3 「ブッシュ大統領の演説とリズム表記」 『専修大学外国語教育論集』 第 33 号, pp.29-54.
- (34) 2006.3 「キング牧師の演説『私には夢がある』のリズム表記」 『専修人文論集』 第 78 号, pp.141-60.
- (35) 2006.3 「英語のフォークソングとリズム表記」 『専修大学外国語教育論集』 第 34 号, pp.17-40.

## B. 相撲関係

- (1) 2003.3 「相撲の軍配」 『専修大学人文科学年報』 第 33 号, pp.91-123.
- (2) 2003.9 「行司の触れごと」 『専修大学人文科学月報』 第 207 号, pp.18-41.
- (3) 2003.10 「行司の作法」 『専修人文論集』 第 73 号, pp.281-310.
- (4) 2004.3 「土俵祭の作法」 『専修人文論集』 第 74 号, pp.115-41.
- (5) 2004.7 「行司の改姓」 『専修大学人文科学年報』 第 211 号, pp.9-35.
- (6) 2004.10 「土俵祭の祝詞と神々」 『専修人文論集』 第 75 号, pp.149-77.
- (7) 2005.3 「由緒ある行司名」 『専修人文論集』 第 76 号, pp.67-96.
- (8) 2005.3 「土俵入の太刀持ちと行司」 『専修経営学論集』 第 80 号, pp.169-203.
- (9) 2005.7 「行司の改名」 『専修大学人文科学月報』 第 218 号, pp.39-63.
- (10) 2005.7 「軍配の握り方を巡って(上)」 『相撲趣味』 第 146 号, pp.42-53.
- (11) 2005.10 「軍配の握り方を巡って(中)」 『相撲趣味』 第 147 号, pp.13-21.
- (12) 2005.10 「軍配房の長さ」 『専修人文論集』 第 77 号, pp.269-96.
- (13) 2005.11 「軍配房の色」 『専修経営学論集』 第 81 号, pp.149-79.

- (14) 2005.11 「四本柱の色」 『専修経営学論集』 第 81 号, pp.103-47.
- (15) 2005.12 「軍配の握り方を巡って(下)」 『相撲趣味』 第 148 号, pp.32-51.
- (16) 2006.3 「南部相撲の四角土俵と丸土俵」 『専修経営学論集』 第 82 号, pp.131-62.
- (17) 2006.3 「軍配の型」 『専修経営学論集』 第 82 号, pp.163-201.
- (18) 2006.3 「譲り団扇」 『専修大学人文科学研究所月報』 第 233 号, pp.39-65.
- (19) 2006.10 「天正 8 年の相撲由来記」 『相撲趣味』 第 149 号, pp.14-33.
- (20) 2006.10 「土俵の構築」 『専修人文論集』 第 79 号, pp.29-54.
- (21) 2006.12 「土俵の揚巻」 『専修経営学論集』 第 83 号, pp.245-76.
- (22) 2007.3 「幕下格以下行司の階級色」 『専修経営学論集』 第 84 号, pp.219-40.
- (23) 2007.3 「行司と草履」 『専修経営学論集』 第 84 号, pp.185-218.
- (24) 2007.3 「謎の絵は南部相撲ではない」 『専修人文論集』 第 80 号, pp.1-30.
- (25) 2007.10 「立行司の階級色」 『専修人文論集』 第 81 号, pp.67-97.
- (26) 2007.11 「座布団投げ」 『専修経営学論集』 第 85 号, pp.79-106.
- (27) 2007.11 「緋房と草履」 『専修経営学論集』 第 85 号, pp.43-78.
- (28) 2008.3 「行司の黒星と規定」 『専修人文論集』 第 82 号, pp.155-80.
- (29) 2008.3 「土俵の屋根」 『専修経営学論集』 第 86 号, pp.89-130.
- (30) 2008.10 「明治 43 年 5 月以降の紫と紫白」 『専修人文論集』 第 83 号, pp.259-96.
- (31) 2008.11 「明治 43 年以前の紫房は紫白だった」 『専修経営学論集』 第 87 号, pp.77-126.
- (32) 2009.3 「昭和初期の番付と行司」 『専修経営学論集』 第 88 号, pp.123-57.
- (33) 2009.3 「行司の帯刀」 『専修人文論集』 第 84 号, pp.283-313.
- (34) 2009.3 「番付の行司」 『専修大学人文科学年報』 第 39 号, pp.137-62.

- (35) 2009.10 「帯刀は切腹覚悟のシンボルではない」 『専修人文論集』  
第 85 号, pp.117-51.
- (36) 2009.11 「明治 30 年以降の番付と房の色」 『専修経営学論集』  
第 89 号, pp.51-106.
- (37) 2010.3 「大正時代の番付と房の色」 『専修経営学論集』 第 90 号,  
pp.207-58.
- (38) 2010.3 「明治の立行司の席順」 『専修経営学論集』 第 92 号, pp.31-51.
- (39) 2010.3 「改名した行司に聞く」 『専修大学人文科学年報』 第 40 号,  
pp.181-211.
- (40) 2010.10 「立行司も明治 11 年には帯刀しなかった」 『専修人文論集』  
第 87 号, pp.199-234.
- (41) 2010.12 「草履の朱房行司と無草履の朱房行司」 『専修経営学論集』  
第 91 号, pp.23-51.
- (42) 2010.12 「上覧相撲の横綱土俵入りと行司の着用具」 『専修経営学論  
集』 第 91 号, pp.53-69.
- (43) 2011.3 「天覧相撲と土俵入り」 『専修人文論集』 第 88 号, pp.229-64.
- (44) 2011.3 「明治時代の四本柱の四色」 『専修大学人文科学年報』 第 41  
号, pp.143-73.
- (45) 2011.10 「行司の木村姓と式守姓の名乗り」 『専修人文論集』 第 89 号,  
pp.131-58.
- (46) 2011.12 「現役行司の入門アンケート調査」 『専修経営学論集』  
第 91 号, pp.1-28.
- (47) 2012.3 「土俵三周の太鼓と触れ太鼓」 『専修人文論集』 第 90 号,  
pp.377-408.
- (48) 2012.3 「大正期の立行司を巡って」 『専修経営学論集』 第 94 号,  
pp.31-51.
- (49) 2012.3 「明治と大正時代の立行司とその昇格年月」 『専修大学人文  
科学年報』 第 42 号, pp.123-52.

- (50) 2012.10 「大正末期の三名の朱房行司」 『専修人文論集』 第 91 号,  
pp.143-74.
- (51) 2013.3 「江戸時代の行司の紫房と草履」 『専修大学人文科学年報』  
第 43 号. (近刊)
- (52) 2013.3 「足袋行司の出現と定着」 『専修人文論集』 第 92 号. (近刊)
- (53) 2013.3 「十両以上の行司の軍配」 『専修経営学論集』 第 95 号. (近刊)

### III 短評・雑誌記事等

- (1) 1975. 『新言語学辞典』 (改訂増補版) の「WP」項, pp.597-8, 研究社.
- (2) 1979.10 「『フィーバー』の『フィ』をめぐって」 (月刊) 『言語』 10  
月号, pp.126-8, 大修館書店.
- (3) 1980.1 寛・他著『生成音韻論』 (英宝社) の短評, (月刊) 『言語』 1  
月号, 大修館書店.
- (4) 1984.6 月刊『英語青年』 (研究社) の「海外新潮」 (英語学) の項, 昭  
和 59 年 6 月号, 9 月号, 12 月号と昭和 60 年 3 月号.
- (5) 1987.4 「(教師に) 望まれる音声の運用力」 (月刊) 『英語教育』 4 月号,  
pp.126-8, 大修館書店.
- (6) 1987.8 島岡・佐藤著『最新の音声学・音韻論』 (研究社) の短評, 月刊  
『現代英語教育』 8 月号, 研究社.
- (7) 1987.9 「一次ヒアリング・テスト (Part 2)」 (月刊) 『百万人の英語』  
9 月臨時増刊号, pp.84-7, 日本英語教育協会.
- (8) 1988.5 「英検 3 級予想問題 (一次筆記試験)」 (月刊) 『百万人の英語』  
5 月臨時増刊号, pp.39-46, 日本英語教育協会.
- (9) 1988.9 「英語発音の特徴」 (月刊) 『英語教育』 9 月増刊号, pp.26-8, 大  
修館書店.
- (10) 1988.9 「英検一次ヒアリングテスト (準一級・一級)」 (月刊) 『百万  
人の英語』 9 月臨時増刊号, pp.86-9/pp.111-2, 日本英語教育協会.
- (11) 1989.5 「1 級聞き取り力がモノになるワンポイント対策」 (月刊) 『百万  
人の英語』 5 月臨時増刊号, pp.12-4, 日本英語教育協会.

- (12) 1990.5 「英検受験直前対策 (Step 8～Step 10) : 構文(1)～(3)」 (月刊) 『百万人の英語』 5 月臨時増刊号, pp.52-63, 日本英語教育協会.
- (13) 1990.12 「文強勢と音調」 (月刊) 『英語教育』 12 月号, pp.8-9, 大修館書店.
- (14) 1992.10 「英語らしいリズムとイントネーション」 (月刊) 『英語教育』 10 月号, pp.20-2, 大修館書店.
- (15) 1993.4 月刊『英語青年』 4 月号で安井著『音声学』 (開拓社, 1992) の書評.
- (16) 1995.8 「英語らしいリズム・イントネーションの獲得」 (月刊) 『英語教育』 8 月号, pp.26-8, 大修館書店.
- (17) 1996.11 「英語の無強勢化」 『音韻研究』 (音韻論研究会編), pp.21-4, 開拓社.
- (18) 1996.11 島岡・他編著『音声学・音韻論』で Goyvaerts 著 Aspects of Post-SPE Phonology の項 (pp.169-70) と Goyvaerts & Pullum 編 Essays on the Sound Pattern of English の項 (pp.167-9) を執筆, 研究社.
- (19) 1997.3 「TOEFL 模試で力試し」 『週刊 ST』.
- (20) 2002.12 「ネイティブっぽく聞こえる発音のツボ 30」 月刊『English Journal』 (12 月号), pp.27-40, アルク.
- (21) 2006.9 「行司と軍配」 『四角い土俵とチカラビト』, pp.50-1, 岩手県立博物館 (第 57 回企画展).
- (22) 2007.1 教養英語の発音教育 『中央評論 (特集 ほんものの外国語学習とは?)』, No.258, pp.68-77, 中央大学.

この他に、「宮古方言における助詞の一部と代名詞の形態」(40 頁, 1968), 「宮古方言における分節音その研究」(37 頁, 1969.2), 「宮古方言における動詞と形容詞の語尾変化について」(36 頁, 1969.11) を沖縄女子短期大学在職時に謄写版で発表している。また, 1978 頃には『愛知大学外国語研究室報』第 2 号で「英語学習と英語らしい発音」(2 頁) を発表しているが, 正

確な発行年月とページ数は確かでない。

#### IV 学会発表

- (1) 1974.10 「基底分節音 /ʔ/ (SPE の前舌・低・張り母音) をめぐって」, 東北英文学会.
- (2) 1977.11 「外来語の『デモ』」, 大阪外国語大学言語研究会.
- (3) 1981.5 「動詞語形変化の分析をめぐる問題点」, 表現学会.
- (4) 1984.10 「接尾辞 -(at)ory と -ary を伴う語について」, 東北英文学会.
- (5) 1985.11 「句のリズム規則と韻律樹形図」, 日本英語学会.

#### V その他 (記憶に残る学外の主なもの。個人的活動も含む。リストの中には主催者と年月日が確かでないものもあるかもしれない。)

- (1) 1987.4 以降 (2013.3 まで) 中央大学理工学部で非常勤講師 (一般英語).
- (2) 1987.4 以降 (2012.9 まで) 東海大学文学部で非常勤講師 (英語音声学).
- (3) 1988.9 後期に美唄市の北海道短期大学で講演 (英語力をつけるには). 日付は確かでない.
- (4) 1989.5 前期に玉名市の玉名高校で訪問懇談 (英語教育について英語教師と語り合う). 日付は確かでない.
- (5) 1991.9 福島県郡山市の奥羽大学文学部で4日間の集中講義 (英語音声学).
- (6) 1997.6 横須賀市主催の市民対象の講演 (相撲). 日付と主催者名は確かでない.
- (7) 1998.5 墨田区の市民講座で2カ月間 (8回ほど) 講座担当 (相撲). 日付は確かでない.
- (8) 2001.9 岩手県立博物館で講演 (相撲の行司).
- (9) 2001.7 ボストンで二カ月ほど短期在外研究 (言語学).
- (10) 2009.7 エルサレムで二カ月ほど短期在外研究 (ユダヤ教). その後, 2010.7 にも二カ月ほどイスラエル滞在 (ユダヤ教). 2011.8 にはシリアを10日間ほど旅行 (中東の宗教).

- (11) 2010.3 テレビ局 TBS のクイズ番組でビデオ出演（板番付の解答と解説）。撮影は研究室。

立教大学文学部（「英語の発音」担当）や日本大学商学部（「一般英語」担当）でもしばらく非常勤講師をしていたことがある。他には、金城学院大学に勤務していたとき、1977年の7月から8月にかけてヨーロッパとイギリスを一か月ほど引率して研修旅行している。英語と関係ある学会には若い頃いくつか（たとえば、英語学会、英語音韻論学会、JACET、表現学会など）に入ったり辞めたりしているが、正確な年月日は覚えていない。全国英語学会や東北英語学会のシンポジウム（音韻論の部）で幾度か司会を務めたこともある。専修大学に赴任して間もなく、英語を話せる海外の人と交流するためにハムの免許を取得したが、必要な器具を購入することもせず、結果的には免許を活かすことができなかった。

なお、このリストの各項目には主だったことを記してある。研究室に所蔵してあるものや記憶にあるものを頼りにまとめてある。かなり正確なリストにはなっているが、記入されていないものがあるかもしれない。そのことを最後にお断りしておきたい。